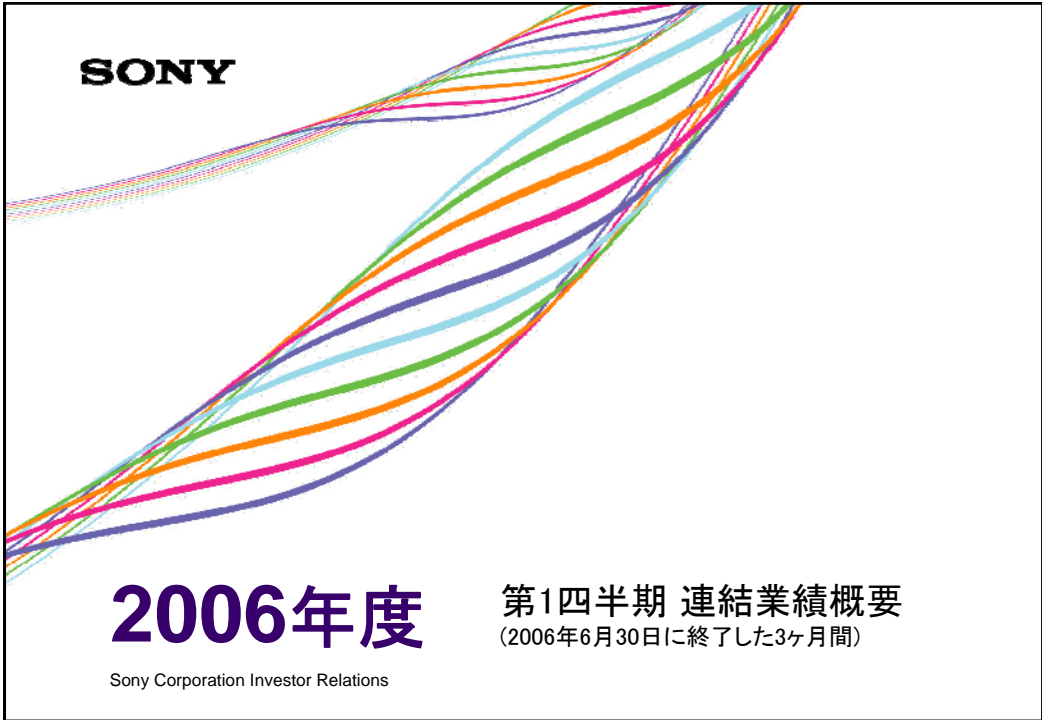




SONY



# 2006年度

## 第1四半期 連結業績概要 (2006年6月30日に終了した3ヶ月間)

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービスをソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強、およびゲーム分野における新しいプラットフォーム開発・導入のための多額の投資を回収できること、(5)ソニーがエレクトロニクス分野で人員削減やその他のビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に十分な経営資源を適切に集中させられること、(8)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否、および(9)ソニーと他社との合併・提携の成否、などです。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

## FY06.1Q 業績ハイライト&トピックス

### Results Overview

第1四半期の連結売上高は、ゲーム、金融ビジネス分野で減収となったものの、エレクトロニクスおよび映画分野での増収により、前年同期比で11%増収(現地通貨試算ベースで6%増収)。

連結営業利益は、原価率の改善と重要製品群における増収により収益改善を果たしたエレクトロニクス分野の貢献により、270億円の利益計上(前年同期は66億円の損失)。ただし、ゲーム分野では前年同期比で損失が拡大し、金融ビジネス分野では減益。

FY06 業績見通しは、特許実施許諾料見込み額(300億円)を売上高および営業利益に計上することによる影響を除けば、4月時点から変更なし。

### Topics



© 2006 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.

液晶テレビ「BRAVIA<ブラビア>」の販売好調が続き、全地域で大幅な成長を記録。



2006年5月19日以降世界各地で公開された「ダ・ヴィンチ・コード」が大ヒット、全世界の劇場興行収入は7億4,000万ドルを超える。

7月販売開始のデジタル一眼レフカメラ α〔アルファ〕100iに対する市場からの需要はきわめて高く、好スタートを切った。



ソニー・エリクソンは、ウォークマン®携帯を含むヒット製品の貢献により市場シェア向上を果たし、税引前利益は前年同期比2倍超の増加。

3

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q 連結業績

(億円)

	FY05.1Q	FY06.1Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	15,681	17,442	+11.2%	+6%
営業利益(損失)	-66	270	-	-
税引前利益	129	540	+318.7%	
持分法による投資利益(損失)(純額)	-91	36	-	
当期純利益(損失)	-73	323	-	
1株当り当期純利益(損失)(希薄化後)	-8.68 円	30.75 円	-	
構造改革費用**	159	107	-52	

為替変動による業績への影響額		平均レート	FY05.1Q	FY06.1Q
売上高および営業収入:	約 +801 億円	1 ドル	107 円	113 円
営業利益:	約 +188 億円	1 ユーロ	134 円	142 円

\* LCベース: 円と現地通貨との間に行替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

\*\* 構造改革費用は営業費用に含まれる。

4

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q セグメント情報および関連会社業績

(億円)

連結セグメント		FY05.1Q	FY06.1Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	11,284	12,809	+13.5%	+8%
	営業利益(損失)	-267	474	-	-
ゲーム	売上高	1,728	1,225	-29.1%	-32%
	営業利益(損失)	-59	-268	-	-
映画	売上高	1,444	2,048	+41.8%	-
	営業利益(損失)	42	-12	-	-
金融	金融ビジネス収入	1,538	1,241	-19.3%	-
	営業利益	219	46	-79.1%	-
その他	売上高	931	881	-5.3%	-
	営業利益	52	47	-9.6%	-

\* LCベース: 円と現地通貨との間を為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

主要持分法適用会社		4/05 - 6/05	4/06 - 6/06	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	1,614	2,272	+41%
	税引前利益	87	211	+143%
ソニー-BMG (百万ドル)	売上高	1,019	872	-14%
	税引前利益(損失)	-23	-73	-

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニー-BMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です。

5

Sony Corporation Investor Relations

## FY06 連結業績見通し

(億円)

	FY05	FY06 見通し	前年度比	4月時点見通し
売上高および営業収入	75,106	82,300	+10%	82,000
営業利益	2,264	1,300	-43%	1,000
うち、構造改革費用	1,387	500	-64%	500
税引前利益	2,863	1,500	-48%	1,500
持分法投資利益(純額)	132	400	+204%	400
当期純利益	1,236	1,300	+5%	1,300
設備投資額	3,843	4,600	+20%	4,600
うち、半導体投資額	1,400	1,700	+21%	1,700
減価償却費*	3,818	4,100	+7%	4,100
研究開発費	5,318	5,500	+3%	5,500
為替レート	FY05 実績レート	FY06.2Q以降 前提レート		FY06 前提レート
1 ドル	112.3 円	113 円前後		113 円前後
1 ユーロ	136.3 円	136 円前後		136 円前後

従来、「その他の収益」に含めていた特許実施許諾料を、当四半期より「売上高および営業収入」に含めたことにとともに、FY06の見通しについても、FY06特許実施許諾料見込み額300億円(FY05の特許実施許諾料は352億円)を「売上高および営業収入」および「営業利益」に含めて4月時点の見通しを修正。この影響を除けば、4月時点から変更なし

\* 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む。

6

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q 構造改革進捗報告

	目標数値 (FY07末まで)	FY05 + Q1 FY06 実績		
		FY05 実績	Q1 FY06 実績	実績
連結営業利益率*	5%	3.9%	2.2%	-
エレクトロニクス営業利益率*	4%	1.4%	4.5%	-
コスト削減(億円)	2,000	380	380	760
製造拠点統廃合	65のうち11	9	0	9
モデル数削減**	-20%	Base Year	-13%	-13%
人員削減	10,000	5,700	3,900	9,600
資産売却(億円)	1,200	780	350	1,130

進捗状況は予定通り

\* 営業利益率：営業利益率は構造改革費用と代行返上益を除く  
 \*\* モデル数削減：FY05 (Base year)に対するFY06の削減比率

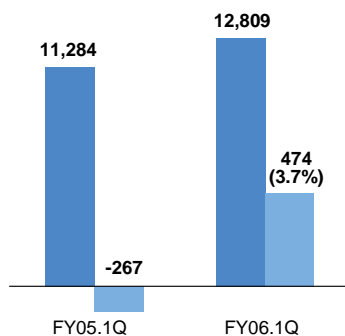
7

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q エレクトロニクス

(億円)

売上高および営業利益(損失)



FY06.1Q業績

売上高：13.5%増加(外部顧客向け売上:19%増加)

増収：液晶テレビ「BRAVIA<ブラビア>」、  
デジタルカメラ「サイバーショット」、  
PC「バイオ」

減収：ブラウン管テレビ、プラズマテレビ

営業利益：741億円増加

(+) 要因：原価率の改善、外部顧客向け売上増、為替

(-) 要因：固定資産の減損・除売却損の増加

構造改革費用：101億円計上(前年同期 155億円)

前年同期比 (LC)

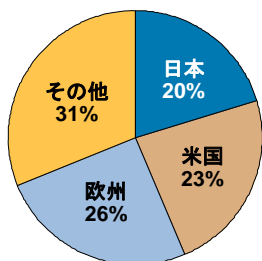
売上高	+13.5%	+8%
営業利益	-	-

セグメント間取引を含む / LC：現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

8

Sony Corporation Investor Relations

### FY06.1Q エレクトロニクス地域別売上



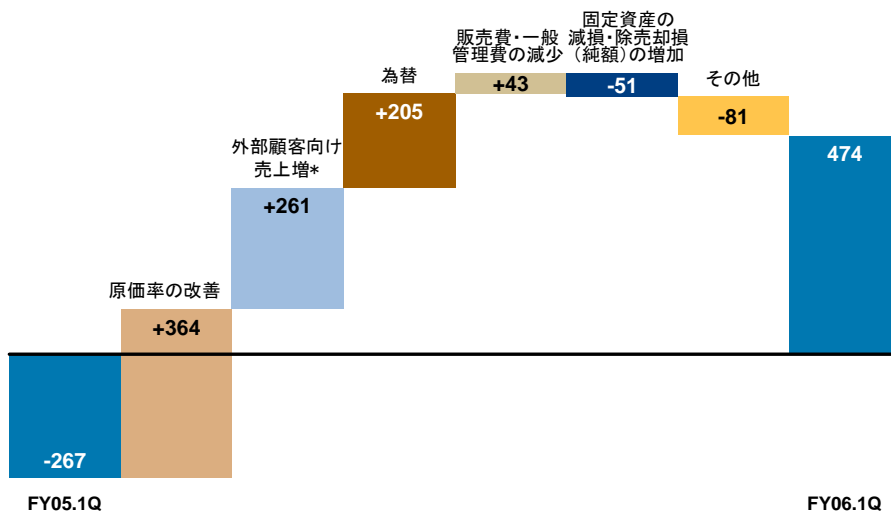
営業収入を除く  
外部顧客に対する売上  
12,157 億円 +19% (LC +13%)

- **日本: +17%**
  - 増収: 液晶テレビ、携帯電話端末、放送機器
  - 減収: HDD/フラッシュメモリー内蔵型「ウォークマン®」
- **米国: +10% (LC +3%)**
  - 増収: 液晶テレビ、液晶リアプロジェクションテレビ
  - 減収: ブラウン管プロジェクションテレビ、ビデオカメラ
- **欧州: +27% (LC +20%)**
  - 増収: 液晶テレビ、PC「バイオ」
  - 減収: ブラウン管テレビ
- **その他: +22% (LC +13%)**
  - 増収: 液晶テレビ、PC「バイオ」、デジタルカメラ
  - 減収: 携帯電話端末

円グラフは地域別売上高構成比(円ベース) / 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率

### FY06.1Q エレクトロニクス営業利益増減要因

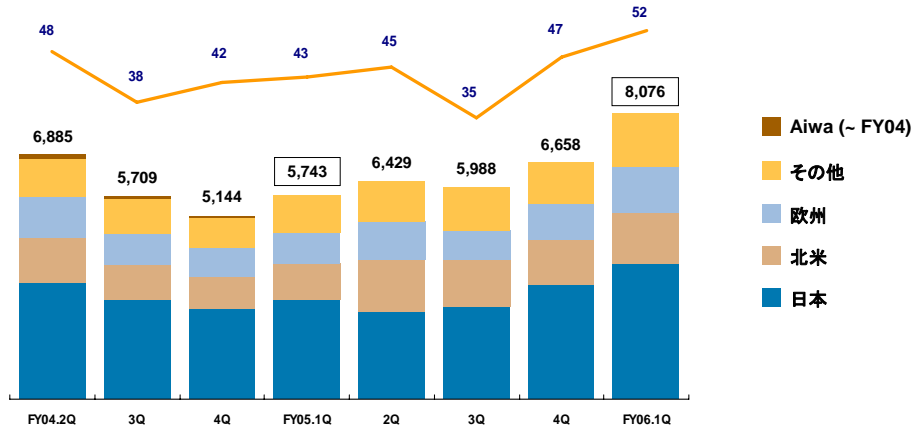
(億円)



\* 外部顧客向け売上に対する粗利増

## エレクトロニクス連結棚卸資産(地域別)

(億円、日)



- 8,076億円(前年同期末比 2,333億円の増加。2006年3月末比では、1,418億円の増加)

棒グラフ：棚卸資産(億円単位)  
折れ線グラフ：棚卸資産回転日数(期首期末平均棚卸資産÷期中平均日次売上)  
FY05よりAIIWA在庫は各地域に振り分けています。  
FY05.1Qの在庫回転日数は、ビジネス別セグメント区分の変更に合わせて修正再表示されています。

11

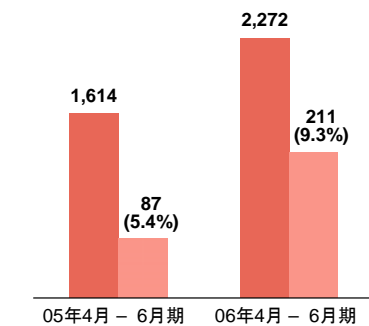
Sony Corporation Investor Relations

## ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ

持分法適用会社

(百万ユーロ)

売上高および税引前利益



06年4月-6月期業績

売上高は41%増、税引前利益は143%増

- 出荷台数: 33%増の1,570万台
- 主に、ウォークマン®携帯(W810)、2メガピクセル・オートフォーカスカメラ付き携帯(K750)が業績に貢献
- 2006年の世界市場全体の台数については、予想を上回るペースで成長している現状を鑑み、前四半期時点の9億台超から上方修正し、9億5,000万台超を見込む

ソニーへの影響額: 持分法による投資利益は102億円

ソニー持分への影響額

	05年4月 - 6月期	06年4月 - 6月期	前年同期比
当期純利益(百万ユーロ)	75	143	+91%
ソニー持分への影響額(億円)	46	102	+122%

税引前利益下の(%)は税引前利益率

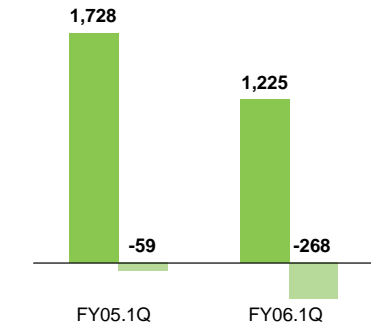
12

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q ゲーム

(億円)

### 売上高および営業利益(損失)



前年同期比 (LC)

売上高	-29.1%	-32%
営業利益(損失)	-	-

### FY06.1Q業績

#### 売上高:

- ハードウェア: 前年同期は新型PS2に対する旺盛な需要が続いていたのに対し、PS2、PSPともに前年同期比で販売数量が減少、減収
- ソフトウェア: PSP用ソフトは増収となったものの、PS2用ソフトの減収により、全体で減収

#### 営業損失:

- 既存ビジネスにおける利益は前年並みだったが、PS3に向けた積極的なR&D投資継続、およびPS3プラットフォームの立ち上げ関連費用の計上などにより営業損失拡大

#### 棚卸資産額:

- 1,220億円(前年同期末比45%増)
- PSPの全世界展開に伴う増加

### 生産出荷台数

		FY05.1Q	FY06.1Q	前年同期比
ハード(万台)	PS2	353	254	-28%
	PSP	209	202	-3%
ソフト(万本)	PS2	3,500	3,300	-6%
	PSP	490	910	+86%

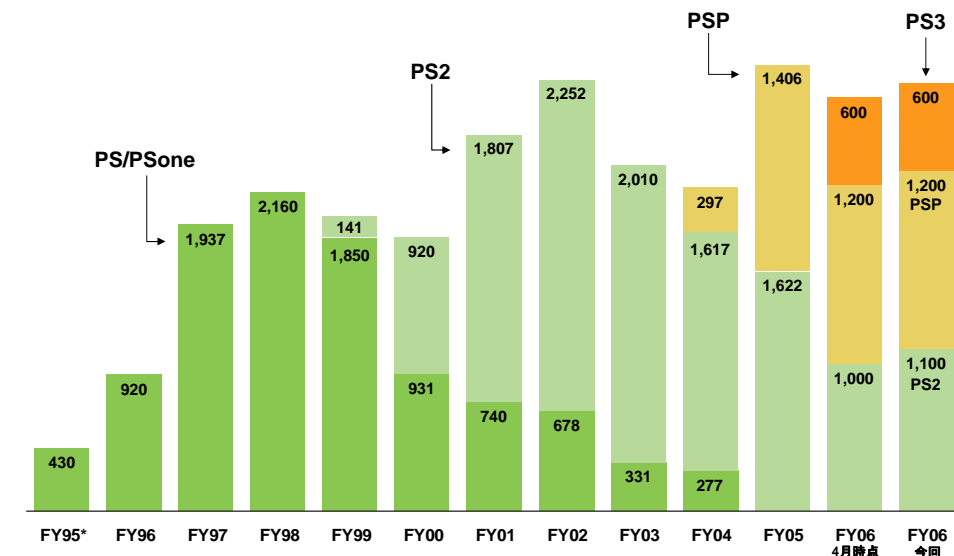
セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

13

Sony Corporation Investor Relations

## PlayStation ハード生産出荷台数&見通し

(万台)



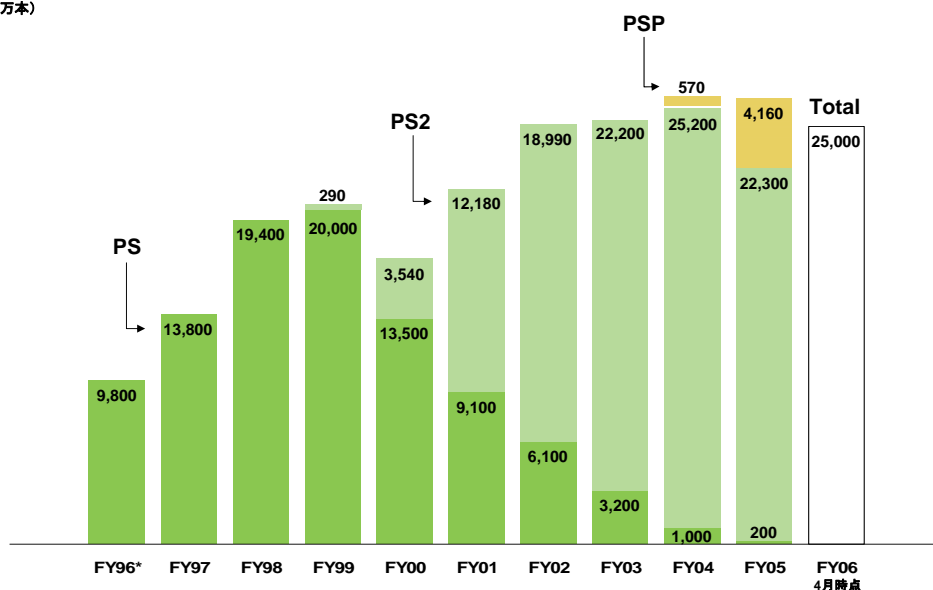
\*FY95は94.12月から96.3月までの累計

14

Sony Corporation Investor Relations

## PlayStation ソフト生産出荷本数&見通し

(万本)



\*FY96は94.12月から97.3月までの累計

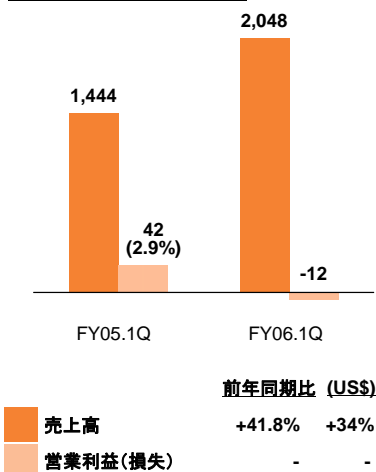
15

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q 映画

(億円)

売上高および営業利益(損失)



FY06.1Q業績

売上高: 42%増加、米ドルベースでも34%増加

(+)要因:

- 主に「ダ・ヴィンチ・コード」が全世界で大ヒットしたことによる
- 映像ソフトウェア売上は、他社製作の買い付け作品のDVD売上が好調だったことにより増加
- テレビ番組収入も、米国外の番組配信事業の売上増により増加

営業損失: 12億円の損失計上

(-)要因:

- 主として第2四半期に劇場公開される予定の映画作品に関する広告宣伝費が前年同期に比べ増加したことによる
- 前年度に公開された映画の当四半期への貢献も前年同期に比べ低水準
- テレビ番組については、今秋放送開始予定のネットワーク番組の制作費計上などにより減益

セグメント間取引を含む / US\$ : SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

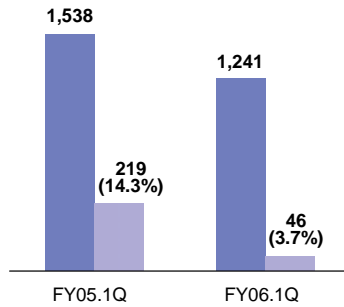
16

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q 金融

(億円)

### 金融ビジネス収入および営業利益



#### 前年同期比

金融ビジネス収入	-19.3%
営業利益	-79.1%

### FY06.1Q業績

#### 金融ビジネス収入:主にソニー生命の減収により、19%減収

- ソニー生命の収入:23%減少
- (+)要因:保険料収入が増加
- (-)要因:株式市況の低迷により、一般勘定および特別勘定の評価益が減少

#### 営業利益:主にソニー生命の減益により、79%減少

- ソニー生命の営業利益:86%減少
- (+)要因:保険料収入が増加
- (-)要因:株式市況の低迷により転換社債の評価益が減少
- ソニー損保、ソニー銀行のビジネスは順調に推移。

### ソニー生命の業績

	FY05.1Q	FY06.1Q	前年同期比
収入 (億円)	1,276	981	-23%
営業利益 (億円)	225	31	-86%

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

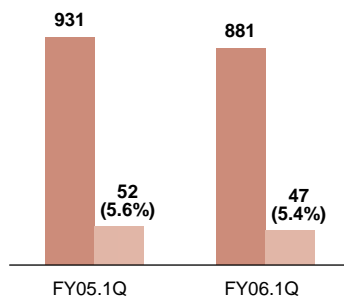
17

Sony Corporation Investor Relations

## FY06.1Q その他

(億円)

### 売上高および営業利益



#### 前年同期比

売上高	-5.3%
営業利益	-9.6%

### FY06.1Q業績

SMEIの音楽出版事業およびSMEJの業績を含む

#### 売上高:前年同期比5%の減収

- 減収は主にリテール事業の売却およびSMEJの減収による
- SMEJ
- (-)要因:アルバムおよびシングル売上の減少
- 当四半期の売上貢献作品は、アンジェラ・アキの「Home」、HYDEの「FAITH」、T.M.Revolutionの「1000000000000」など

#### 営業利益:5億円減少の47億円

- 主にSMEJの減収による

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

18

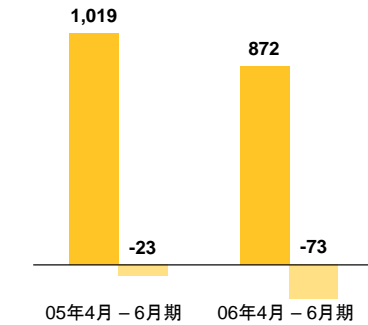
Sony Corporation Investor Relations

## ソニーBMG・ミュージックエンタテインメント

持分法適用会社

(百万ドル)

売上高および税引前利益(損失)



06年4月 - 6月期業績

売上高は14%減少、税引前損失は7,300万米ドル

- (-) 要因:
  - いくつかの主要作品の発売が第2四半期以降にずれ込んだことにより作品の売上枚数が減少
  - 世界的に低調な市場環境が継続
- 当四半期の貢献作品は、ディクシー・チックスの「テイキング・ザ・ロング・ウェイ」、Tool の「10,000 Days」など

ソニーへの影響額: 持分法による投資損失は46億円

ソニー持分への影響額

	05年4月 - 6月期	06年4月 - 6月期	前年同期比
当期純利益(損失) (百万ドル)	-18	-31	-
ソニー持分への影響額 (億円)	-10	-46	-

	前年同期比
売上高	-14%
税引前利益(損失)	-

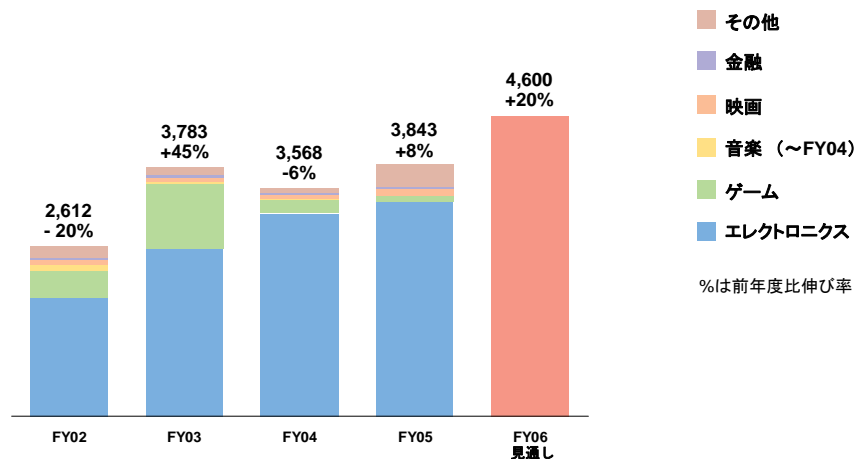
税引前利益下の(%)は税引前利益率

19

Sony Corporation Investor Relations

## FY06 設備投資額見通し

(億円)



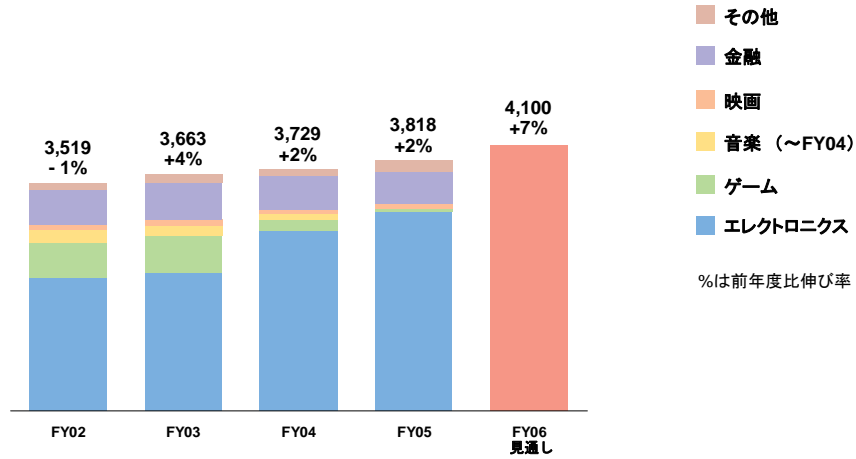
- FY06設備投資額見通しのうち、半導体向けは1,700億円(前年度1,400億円)
- 4月時点の見通しから変更なし

20

Sony Corporation Investor Relations

### FY06 減価償却費および償却費見通し

(億円)



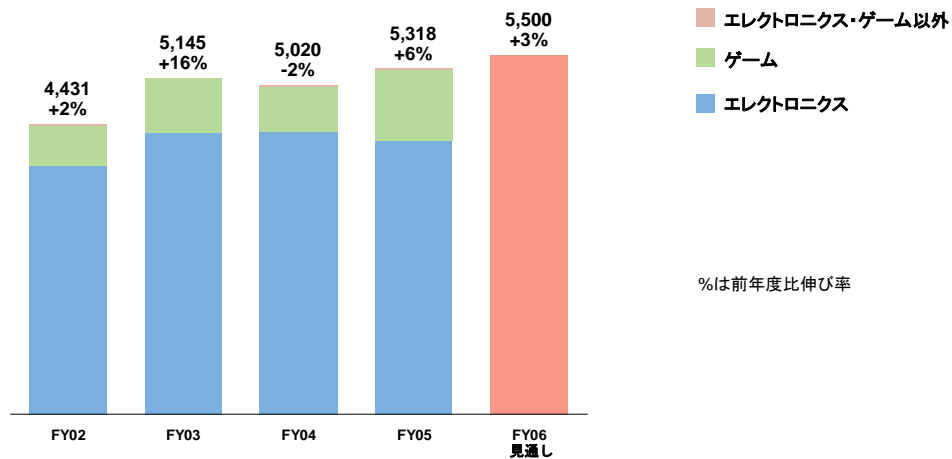
- FY06減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は3,400億円(前年度3,105億円)
- 4月時点の見通しから変更なし

21

Sony Corporation Investor Relations

### FY06 研究開発費見通し

(億円)



- 4月時点の見通しから変更なし

22

Sony Corporation Investor Relations